

基本政策	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4点満点 評価	改善策	学校関係者評価で いただいた意見等
心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む	たくましい子・感じる子・やさしい子	身近な環境に主体的に関わり、心も体も弾ませて遊ぶ子供を目指して	身近な自然との関わり	・地域の方の竹林でタケノコを掘らせてもらったり、レンゲ畑やタンポポ畑、コスモス畑などで遊ばせてもらった。同じ場所に繰り返し行き、そこで見つけた自然に触れたり、気付いたことを友達と伝え合ったりするなどの経験につながった。 ・苗や種から植物や野菜を育てることを通して、生長する様子に関心をもったり、収穫に期待をもったりした。 ・八多町で育てられている古代米や姫黒豆などの植栽方法を地域の方から教わり、収穫したり実際に親子で味わったりして楽しんだ。	4	・幼児が身近な自然への興味や関心がより深まるよう、保護者や地域の方の支えや協力を得ながら、自園だけではできないことが達成できるようにする。 ・野菜や米などは収穫を楽しむことだけが目的ではなく、実ったものは来年には種として命が受け継がれていくものであることを経験できるようにする。 ・教師自身が周りの自然の移り変わる様子に気づき、感動したことを幼児と一緒に感じられるようにする。	・小中学生との交流や地域のイベントなど、いろいろな人と身近にふれ合うことができる小規模園の良さを生かした保育に取り組んでほしい。また、大小様々な規模の幼稚園、保育園等と交流し、幼児が刺激を受け合える保育を進めてほしい。
			様々な人との関わり	・小学生と一緒に近隣の田畑で米やイモなどを植えたり、収穫したりした。また、小学校の休み時間等を利用して各学年の児童と一緒に遊んだり体操したりするなど交流を重ね、幼小接続につながるようにした。 ・中学生とは運動会や保育体験学習などで体操をしたり、絵本を見たり、一緒に弁当を食べたりする機会をもった。互いに声を掛け合える自然な姿につながった。 ・地域の方に八多太鼓の演奏を聞かせてもらったり、太鼓にふれたりする場を与えていただき、太鼓の音色や重さ、大きさなどを身近に感じる事ができた。音楽会等で演奏する機会につながった。また、地域の方と手遊びをしたり、なかよし遊びをしたりするなど楽しんだ。	3.5	・併設学校園の良さを生かした交流と接続を計画する。年間を通してそれぞれの幼児児童生徒の育ちを考慮し、ねらいに向かうことができるように共通理解を図っていく。 ・小中学生とは自然な関わりができるようになった一方、同年代の友達と存分に関わる機会が少ない。近隣の幼稚園、保育所園等と交流を進め、集団の中での友達とのやりとりを経験できる環境を整えていく。	
			健康な体づくり	・“はたっ子タイム”として、毎日、戸外で体を存分に動かして遊ぶ時間を設けた。園庭で鬼ごっこをしたり、マット運動や縄跳び、遊具やボールを使つての遊びなど、いろいろな遊びを取り入れて幼児がもっとやってみようと思えるような運動に取り組んだ。特にマラソンについては好きな曲を聴きながら走ることで、心も体も弾み、走ることが、より好きになった。小学生や中学生を誘って一緒に走る楽しさを味わった。 ・ピアノや好きな曲のリズムに合わせて、前けりやギャロップ、スキップなどいろいろな律動に取り組んだ。動くだけでなく止まる楽しさも味わった。 ・園外保育や近隣散歩では”歩く”を意識した内容で取り組んだ。	4	・いろいろな運動や動きで遊んでいると、ぶら下がったり、体を回転したり、坂を登ったり、階段を下りたりなど、幼児が苦手だったり、経験したことがない体の使い方や動きがある。幼児が楽しさを感じながら、無理なく、継続して取り組める工夫をしていく。 ・地域の巡回バスを利用しながら地域を探索し、歩くことで自然を身近に感じるとともに歩く楽しさをより味わっていく。	・幼児は、明るく、伸び伸びと成長している。これからも園内だけでなく、園外でも元気に挨拶ができる八多らしい子供であってほしい。
			表現活動の充実	・身近な生き物になり、感じたことや気付いたことなどを体や言葉などで表現することを楽しんだ。また、お話の世界に夢を膨らませ、製作したペーパーサークルを用いて友達とやりとりしながらお話をつくり、イメージを共有しながら遊びを進めていくことも楽しんだ。 ・たなばた会では、自分たちで”はたすいぞくかん”を製作した。地域の方や小中学生など、いろいろなお客さんを招いてごっこ遊びを進めた。	3.5	・相手の表現している姿を見たり、話にじっくりと耳を傾けられるよう、教職員が一人一人の思いをしっかりと受け止め、安定した生活を確保する。 ・自己肯定感を味わう機会や場が大切である。幼児が自信をもって取り組むことができるような環境を整えたり、再構成したりしていく。	・地域の人材や場、物などを保育に取り入れ、八多の伝統を担う人へと成長できるよう取り組んでほしい。
			絵本とのふれあい	・月に一度、地域ボランティアの方に絵本や紙芝居を見せて頂いたり、素話や絵描き歌などを聞かせて頂いたりしている。幼稚園にはない絵本や素材などにふれ、お話の世界に親しみをもつことができた。 ・併設小学校の学校司書職員と、生活発表会のお話の中に登場する登場人物やその時代の生活や遊びについてクイズやイラストなどを用いて一緒に考える機会をもった。畳の上で絵本や絵を広げて見るゆったりとした場合は、幼児にとってはとても心地よい時間と空間となった。	4	・地域や学校関係者などの人的環境を保育に生かしていく。 ・幼児が生活や遊びに興味や関心をもっているものについてのいろいろな分野の絵本や本を置き、豊かな感性の育成につながるようにする。	
安心・安全で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える	幼児が遊び込むための環境づくり	安全対策	・園内環境の安全対策として、手洗い場風雨除けガードをクリアなプラスチックガラスに改修、足洗い場の拡張、総合遊具等の塗装、電気錠設置など行った。 ・テラスから園庭にかけてテントを設置したことで、熱中症対策になったり、幼児の遊ぶ空間が広がった。	4	・日頃から全職員で安全点検を行い、危険箇所や破損箇所については即対応する。 ・気候に応じて即対応できるよう、点検をしておく。	幼稚園が幼児の興味や関心に即した環境の見直しや再構成、安全対策について取り組んでいることがよく分かった。その取組についてタイムリーに情報を発信していくことこそが大切である。	
		保育室の環境の再構成	・合同保育を進めていくにあたり、保育室のパーテーションを開放したり、閉めたりするなど工夫した。 ・ザリガニやメダカ、リスなどのいろいろな生き物を幼児の目にふれる場所に置き、見たりふれたりできるようにしたことで、表現活動を展開できた。	4	・少人数ならではの保育が展開できるよう、様々な工夫をし、再検討しながら安全に保育を進めていく。 ・幼児の興味や関心につながるような教材研究や準備を進めていく。		
		遊具や用具置き場の再構成	・マットや巧技台などを幼児が自分たちで出し入れしやすいよう、広い場所に置くなど工夫した。 ・体育倉庫内の用具を幼児と一緒に整理したことで、幼児が自分の好きな遊びを進めていくことができるようになった。	4	・用具の不具合が見つかった場合は、補修及び購入するなどして、幼児が安全に使用でき、遊びが充実できるようにする。		
	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組 (いじめ問題対策委員会等)	いじめ防止対策	・友達の思いに気付いたり、受け止めたりする大切さを、遊びや生活の中で取り上げながら分かり合う機会をつかったことで、互いの良さを認め合おうとする意識が育ってきた。 ・小中学校生と交流を何度も重ねてきたことで、温かく受けとめてもらえるうれしさを感じ、人を思いやる気持ちが育ってきた。 ・いろいろな人と出会う機会を通して挨拶の大切さを伝え、言葉や挨拶を交わしたときの心地よさを味わっている。	3.5	・少人数のため互いの距離が近い。相手の気持ちに気づきやすいという利点がある反面、言葉でのやりとりが不十分だったり、相手の話を曖昧に聞いたりするなどの面がある。聞く力の質を高めていく。 ・考えやアイデアが偏りやすい。いろいろな人との交流ややりとりを通して、一人一人の考えや思いが違うことに気付けるようにしていく。	・少人数のため、大勢の同年代の子供のなかで遊ぶ機会がほとんどない。いろいろな園との交流の進めながら、人とやりとりする力が身に付くような取組の工夫してほしい。	
		幼稚園教育の情報発信	・保護者会やホームページ、園だよりなどを通じて幼児の育ちや保育のねらいなどを映像や様々な資料を用いながら具体的に伝えるようにした。	3	・ホームページについては定期的に更新していく。 ・幼稚園の取組や幼児の姿を含め、園内環境の様子や子育てについての情報なども分かりやすく発信していく。		
		子育て支援	・預かり保育、延長保育等の開催日を保護者のニーズに応じて設定したり、地域の会や様々なイベントに参加したりするなど、内容の充実を図った。 ・預かり保育指導員と園が連携をとりながら、幼児の育ちに即した内容の保育を進めていった。 ・みんなの幼稚園事業では児童館と連携、連絡をとりながら参加する乳幼児に園庭開放をしたり保育を提供したりした。	4	・預かり保育については引き続き指導員と連携しながら保育内容の充実を図る。 ・みんなの幼稚園事業については未就園児が利用できる安全に留意した遊具や用具を準備するとともに、親子で存分に楽しむことができるよう、遊びの内容を工夫する。また、児童館指導員と連携をとりながら参加者のニーズに合うような保育を提供する。	・児童館やふれあいセンターの子育てのイベントを利用する親子を誘い、幼稚園で遊ぶ機会をつくったことがよかった。関係機関や地域、保護者に協力してもらうことが必要である。	
保護者・地域との連携	業務改善	・職員会議にかかる時間の削減につながるよう、日ごろから職員間での連絡、報告、相談を密にした。 ・退勤時間、終業時間を設定し、できる限り遂行できるよう務めたが、業務量が多く、ほとんど実施することができなかった。 ・ペーパーレス化に努めたが、パソコンを使用できる環境が限定されているため、業務改善にはつながらなかった。	3	・職員会議の回数や時間については、計画的に進め、引き続き、終業時刻を早められるよう、改善に努める。 ・ペーパーレス化が有効に進められるよう、フォルダの整理に努める。 ・園行事の見直しを図る。			
	保護者・地域との連携	・保護者参加型の参観日を開催し、幼児の育ちを見てもらったり、保護者同士が交流したりできる機会をもつようにした。また、子育てについての情報を保護者会や降園時の連絡等で伝えるようにした。 ・地域の会に積極的に参加し、幼稚園に来園して幼児と交流する機会をもつなど、地域の方との交流を図った。また、植栽については地域の方に育て方を教わり、栽培、収穫を楽しんだ。	4	・地域の方に支えられたり、温かく見守っていただいていることに感謝する気持ちにつながっていく。 ・地域の一員として成長していくことができるよう、地域の会に継続して参加していく。 ・子育てについての悩みや相談などは、保護者の気持ちに寄り添い、自信をもって子育てができるように支えていく。			